

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372401135		
法人名	有限会社 ふれあい松川		
事業所名	なごみの園・菊水		
所在地	玉名郡和水町長小田334番地		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設敷地内に農園を作っており、新鮮な野菜を収穫その日の食材として食事に提供している、近所の方が畑を耕してくれたり栽培方法を教えていただきながら、入居者様との交流も行っている。また小学校が隣にあることで、小学生との交流もあり皆さん大変喜ばれています、施設周辺は田んぼや自然が多く、四季折々の花や田畑の風景が変わるので散歩の時に季節を感じることができます。併設しているデイサービスや有料老人ホームの方々との交流も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地帯の満天の星空が見れる環境にあるホームでは、開設して11年管理者の交代や職員の入れ替わりという状況と、平均介護度3・8という重度化傾向にはあるが、臥床中心の生活であっても職員は入居者をおもてなしに受け入れ支援する姿勢に“一人ひとりを大切に…とともに居場所を作りましょう”という理念の実現に向けていることが表れている。また、これまで地域の中で築き上げてきた関係が一層深まり、近隣住民からの優しい協力(農作業等)も継続されている。入居者同士の仲睦まじく過ごされる様子に、職員の関りの深さが表れ、一瞬、今しか味わえない楽しみを支援している。(例としてバラ園やコスモス見学、梅や桜の花見等) 法人が一体となって地域高齢者を支えようという志向を高くして臨まれており、今後の更なる発展に大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきその人の思い意思ペースに合わせて地域の方との交流も行い、穏やかな雰囲気作りに心がけ、職員が理念の共有をできるよう毎朝職場の教養を読み 理念の唱和を行い実践している。	開設時から法人理念である“一人ひとりを大切にして、一日一日を楽しく過ごしてともに自分の居場所を作りましょう”とともに“職場の教養”を読み合わせる事で意識を強化させ、その日をスタートしている。入居者と共に昔を振り返る機会として唱和を位置付けてもいる。入居者や家族がこのホームを終の棲家として“ここで最期まで”と望まれていることは理念が息づき、実践に繋げている事例である。	開設して11年過ぎ、グループホームとして掲げた理念が職員のケア規範としての生かされているか等を見直すことを検討いただきたい。全員で振り返ることが、更なる意識付けとともに実践に直結すると思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のバラ園、コスモス畑等があり季節毎に四季折々の花々も見ることが出来、野菜や果物をいただいたりしている。また農園を耕していただいたり栽培法等を教えていただいたりして日ごろより交流している。	自治会に加入し、区長からの情報や、立地条件を生かした外出が近隣住民との交流の機会となっている。隣接のデイサービスに訪問する小学生、中学生の職場体験との交流の他、ホームの畑の耕作や栽培方法の指導等近隣住民も好意的に関わら、老人会・民生委員の目見学等や、熊本地震では避難者にトイレを開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役場 社協等よりの情報を、その都度ニーズに応じて認知症 介護全般 施設情報等を発信し地域の方のニーズ 不安軽減 役場等への橋渡しを行っている。施設見学等も随時受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2か月開催 家族 老人会 民生委員 区長 役場 社協 他事業所の方に参加して頂き、活動状況報告 今後の活動計画を報告して、その都度ご意見を頂いている。それを職員間で話し合っている。	定期的開催している運営推進会議は、ホームからの報告のもと意見交換を行いサービスに反映させている。町役場担当者による介護保険の状況や時節による(ノロウイルスやインフルエンザ対策等)情報、ホーム側も介護予防について質問し行政の立場で回答されている。開催する曜日や時間等家族にアンケートを行なう等この会議を開催する意義を明確にしており、年度末には会議後に食事会を組み入れ、行政・地域委員や家族との交流の機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂いている、その時に、制度改革 介護保険情報 地域の動向行事 施設からの相談事項等意見交換を行っている。	行政担当部署や社協は運営推進会議に出席し、ホームの実情等を把握するとともに必要な情報を提供している。ホーム側も介護予防等の制度改革や家族の困難な事例(免許返納)を相談し、適切なアドバイスを得る等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の基準を職員一人一人内容を把握し、拘束をしないケアを話し合っている。	身体拘束及び虐待について研修会により意識を強化させている。身体的な拘束のみならず、つい出てしまう「座っていて」等の言葉がけも抑制につながりかねないと管理者は職員に注意喚起している。夜間帯にセンサーを使用しているが、夜間職員が1名になること及び転倒防止の為であることを家族に説明し同意を交わしている。また、入居者個々の帰宅願望等の状況を把握し、見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待への理解を深め、全職員虐待防止へ努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行うなどして理解を深め、個人の必要性の有無も考えながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分時間を要し、納得して頂くまで説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際や運営推進会議の際に現状報告し、意見を求め、それを職員間で話し合い、今後の介護に反映出来るようにしている。	毎月報告書により状況を発信し、家族が一堂に会する機会は少ない現状に、誕生会へ参加される機会に要望等を聞き取りしている。家族から出された苦情や相談は記録に残し、家族の苦言ではないかと思え事案は全職員が共有し、即時対応し改善を図るとしている。また、運営推進会議も問題提起の場としてサービスに反映させている。	家族からは穏やかに過ごせば良い等希望はだされるものの苦情の申し出は無い。今後も家族の忌憚の無い意見等をホーム運営に反映させるべく、家族からの意見等を引き出す工夫に期待したい。家族会の設立に向け、ご尽力いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の定例会にて意見を聞く場を設けている。代表者は毎朝訪問し職員の意見を聞いている。また代表者と管理者等は月二回の会議を通して意見交換を行っている。	代表は毎朝ホームに顔を出し、入居者の様子確認や職員とのコミュニケーションを図っている。管理者はノートを介した職員との意見交換や定例会議の中で業務の検討や職員間でのコミュニケーションの強化に取り組んでいる。また、各事業所内の問題点を持ち寄り話し合う等法人全体が連携・協力する体制としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に2回の代表者と責任者の会議にて勤務状況を報告しており、年に一回は職員個人の実績を考慮して功労者を表彰している。必要に応じては面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはできるだけ参加するようにしている、内部研修も定期的に開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名郡市GH連絡協議会の集まりや、他のGHの運営推進会議に参加し、そこで交流情報収集 意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け、表情や行動を観察し、心に秘めている気持ちを見いだせるように心掛けている。又家族 関係機関からの情報取集にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩み、戸惑い不安等をしっかり聞いて受け止め、要望に近いサービスが提供できるように支援しながら関係作り努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞くことに心がけ、本人 家族が何を、必要としているか、何を望んでおられるかを捉え園でのサービス インフォーマルサービス等に照らし合わせ本人 家族が求められるサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であり、郷土料理風習等 今までの経験などを尋ねて、それを共に生活に役立てている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回本人さんの状況報告を郵送にて行っている。家族の面会を大切に、誕生日会など一緒に参加して頂き、共にお祝いしている。面会時等には写真を撮り思い出づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方のボランティアの方々の訪問や親戚の馴染みの方々の面会があっている。入所されてできた馴染みの場所には定期的に散歩など行っている。	家族や親戚等の訪問や、デイに継続的に訪問されるボランティアとの交流、家族の迎えによる帰省、遠方の家族の要望により自宅への帰省が可能となるよう事前にホーム側が自宅を確認し1日を過ごせる環境とする等に馴染みの関係性が継続できるよう支援している。小学生のマラソン大会の応援に出かけたり、入居者同士も馴染みの関係が出来上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯ものたたみ 食材の下ごしらえしたり共に支え助け合い、また体操 レクリエーション・ドライブ・散歩・又ソファで語り等楽しく過ごせる時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との交流もずっとあり近況をお聞きしたりして退所後もかわりを持ち続けている。時には来園されたりしてお話を聞くこともあり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族の言葉の中から、本人の思いや要望を把握し、できるだけ本人の希望に添えるように努力している。	本人から希望や意向が発せられることは難しく、会話も成り立たないが、単語の中から把握したり、家族に相談しながら、本人の思いに応じている。また、意思疎通、発語困難という状況にも、表情や顔色等により推察し、発せられる声を合図として捉え、本人本位になるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人 家族 他事業所等より 生活歴 環境を少しでも多く把握し、その人の性格・趣味・仕事等を理解したうえで、その方の介護に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録に日々の出来事や変化を記録し、全スタッフが情報共有し把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族より意見を聞いて、職員間では1回/月の定例会で意見交換を行い、チームで支える介護計画に繋げている。必要時は、担当者会議を開いているが、回数は少ない。	毎月の定例会議の中で今後予想される変化や再アセスメントの必要性及びサービス担当者会議の必要性を検討し、半年毎に見直し再作成している。現在の状態と家族の要望の他、主治医や訪問看護等入居者に関わらず各関係者により介護保険更新に伴いサービスについて検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個々の状況を記録し、それを読むことで皆が把握でき、情報を共有して介護計画に繋げるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会が仕事終わりで遅くなるため、遅い時間でも面会が出来るようにしたり、一時帰宅がしたいとの要望に家屋調査を行い帰宅に必要なニーズの把握と介護指導を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で、社会福祉協議会・民生委員さんや区長さん老人会などと意見交換を行い、様々な情報を提供をして頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医を選び定期的な往診と定期受診等支援している。	かかりつけ医は本人・家族の希望とし、協力医による往診や他の医療機関からの往診や受診を家族やホームで行っている。また、毎週訪問看護を利用し、日々の健康管理や健康相談を行い適切な医療を支援している。職員は食後の歯磨きなど丁寧な口腔ケアに努め、必要に応じて訪問歯科による治療なども行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師に来ていただいている、日々の健康相談 医療相談を行っている、急変時等、園看護師と密な連携を取り支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療に専念して頂けるよう、また不安がらないように定期的に職員が面会に行っている。早期退院が出来るように先生看護師 相談員等情報交換を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて説明を行い、家族の意向を聞き、事前指定書に記入してもらっている。	重度化や終末期支援については、そのような状態になった時点で医師との話し合いの機会を持ち指針や指定書について説明を行っている。看取りに関して研修は特に実施していないが、その都度対応について話し合い、看護職員や訪問看護師より注意事項などが伝えられている。終末期をホームで希望される家族もあり、訪問看護を利用しながら出来る支援に努めている。	事前指定書を早い時点で取られている方に対しては、再度確認の必要があると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事例に基好き指導は行っているが、すべての職員が実践力がついているとは言えないのが現状、緊急連絡網ですぐに連絡はとれるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年消防・避難訓練を実施している。消防署の方により避難訓練 消化訓練等行い指導して頂いている。災害時にはご近隣の応援を頂けるようお願いしている。	年2回の消防避難訓練を実施し、9月の訓練は敷地内の併設施設と合同で行われ消防署の参加協力が得られている。今回の熊本地震ではホームに大きな被害はなかったものの、震災後の研修会に管理者が参加し、日頃の備えの重要性を再認識している。備蓄品としては、水、食料(御飯・レトルト品など)、カセットコンロ等を確保し、職員も周知している。日頃の安全管理は自主点検チェック表により、外回りや吸い殻・台所の火元などを確認している	今後は夜間を想定した訓練の実施や、自然災害についてもまずは机上で行ってみたいと思われる。また、自主点検項目に、コンセントの埃の追加を望みたい。また、管理者は地域との連携も視野に入れた訓練の必要性や日頃から地元消防団と交流に努めたいとしており、実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報情報は目的に応じて、本人 家族に了解を得て使用している。入居者の方に対しては一人ひとりを尊重する言葉を使うと共に対応にも本人の意思を尊重している。	入居者の呼称は苗字を基本としているが、同姓の場合は下の名でも対応している。個人情報使用については、本人・家族の了承を得、面会簿も個別記入としている。入浴支援では同性を希望される場合は、職員を交替して対応している。本人の希望などに沿えるよう努めており、起床が遅くなり朝食時間が大幅にずれる方にも、本人のペースで食事を提供している光景が見られた。また、好みの衣類の選択やヘアブラシの準備など整容にも努め、訪問理容で顔そりを希望され、「つるつるになった！」と、喜びの言葉が発生されている。	職員の言葉使いについて、方言の中でも口調については、今後も十分な配慮いただきたい。今後も入居者に対して馴れ合いにより失礼な言葉使いや対応になっていないか等、研修会等で共有を図っていかれることを期待したい。また、居室に入る際は在室の有無に関係なく、その方の部屋としてノックの徹底が必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や願いが聞き出せるような雰囲気づくり話しかけを行い 答えが出やすいようにしている。表情 全身の反応も見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状況に合わせ、希望を尊重し日々を過ごせるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服の選択や鏡の前にヘアブラシを置いたりして身だしなみを整えたりできるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる時には食べたいもの聞いたり、農園への収穫と一緒にいたり 下ごしらえ お盆拭きをしたりしている。	献立は入居者の好みなども反映させながら作成し、職員が輪番で調理を行なっているが、夕食の主菜は(日曜日以外)隣接の通所事業所より届けられている。食材は地域スーパーからの配達や、不足を職員が購入に出かけており、農園のものや夏場は緑のカーテンで収穫した野菜も活用している。入居者は食材の下ごしらえやお盆拭きなど出来ることで食への関わりを持ってもらっているが、参加は少なくなっている現状である。食事は職員も同じものを一緒に食べながら、味や量の確認を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1回/月の体重測定にて体重管理を行っているその人により、切り方 摂取量等を考慮し提供している。又水分摂取については定期的に補水を行い嗜好によりポカリ コーヒー等での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがいを行っている、ブラッシング等についてはできる方は、本人が行い必要に応じて介助を行い清潔保持に努めている。又義歯については洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、失敗にならないように時間を見て誘導を行っている。トイレでの排泄に努めている。	布パンツの方もおられるが、殆んどの方は日中はリハビリパンツが中心であるが、昼夜オムツの使用など身体状況に応じて支援している。夜間のみポータブルトイレを使われる方もおられ、日中はバケツを裏のデッキで天日干しするなど清潔に管理している。また、トイレは衛生面への配慮から必要以外は戸を閉めることを徹底している。	排泄パターンを共有し、失敗のない支援に努めているが、声の掛け方や誘導方法も自立に繋がる大切な支援と思われる。本人の状況を理解し、ケアに努めていかれることを期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便チェックを行い、できるだけ自然排便を促すよう 食物繊維の多い食品等の提供したり、水分補給 トイレでの排泄を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望にできるだけ添えるように応じているが、夜間の入浴は行っていない。	入浴は週2回支援しているが、拒否の方もおられ、声掛けなどを工夫しながら取り組んでいる。臥床中心の方には、週1回のシャワー浴や清拭・手浴・足浴を取り入れ、清潔保持や少しでも気持ちよい時間を持つてもらえるようにしている。冬至の季節には全員が楽しめるよう、ゆず湯を3日間実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調希望により、ソファにて休息したり居室にて昼寝をしたりしている。夜間、寒がりの方については湯タンポを提供したりして安眠できる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は園看護師が行っている、薬の目的副作用については全職員が理解するように努めている。又主治医 訪問看護師との連携をとり状態変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣・趣味を活かし、野菜づくり・収穫・季節行事等今までの生活経験を活かし、共に昔をなつかしみながら、楽しみを見いだして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い日には園周辺へ散歩へ出かけ近所の方と会話をしたり、また車で花・果物等の季節を感じられる様に出掛けている。家族の方と外出が出来るように支援している。	外出は入居者のADLの低下もあり、敷地内の散歩や近隣のバラ園・コスモス畑など無理のない範囲で取り組んでいる。また、代表者は機会あるごとにホームを訪れ、天候の良い時は努めて外気浴や散歩をして欲しいと伝えている。車で梅見学に出かけた際は、気候もあり2名のみのお出となったようだが、笑顔の様子が掲示された写真からも確認された。家族の協力としては、気分転換を兼ねて自宅やファミリーレストランなどでの外食に行かれる方もおられる。	今後も入居者の状態に応じ、個別支援を充実させながら外出支援に取り組んでいただきたい。また、代表者は日本の花でもある桜の開花は誰しもが持ち望むものであり、一瞬でも入居者と職員と一緒にゆっくり味わって欲しいと語っている。裏の小学校の桜が間近かに眺められる環境でもあり、楽しい時間が過ごせることと思われる。取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人の方は自己管理されている、他の方は家族よりお金をお預かりし、出納長を作り職員が管理している、散髪 日用品の買い物等に使用させていただき、面会時に出納長の確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば電話対応に応じている。遠方久しい方からの電話には本人と変わるように心掛けている。書ける方においては、年賀状等に一筆書き添えられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を、居間にも季節の花・写真を飾ったりしている、日付けも解りやすいように張貼してある。	玄関や敷地内に植えられた花苗をはじめ、ホーム内には家族の持参された花や掲示物などにより季節感のある環境に努めている。入居者の誕生日紹介コーナーも職員の特技が活かされている。自立でシルバーカーを使って歩行される方もおられるが、殆んどは車椅子利用という状況であり、お気に入りのソファに移動してもらうなどメリハリのある時間を心がけている。また、採光の良いリビング食堂で過ごす時間が多いため、職員は換気や温度調整を行いながら居心地よく過ごしてもらえる様にしている。	入居者はテレビ視聴も楽しみであると思われるが、番組の選択をはじめ、テレビに頼ってしまっていないか？など、検討も必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いてゆっくりくつろげるようにしている、本人様の自由意思により過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人馴染みの物を置いたり、写真を貼ったりして家族のぬくもりが感じられるようにしている又他の方に気兼ねなく過ごしたり、本人が居心地よく過ごせるように努めている。	入居時に居室にはベッド・エアコン・収納タンスが備わっており、本人の使っていた物や衣類・寝具・家族の写真など安心されるものを準備して欲しいと伝えている。居室入り口に花の名の表札と、担当職員名が記されており、衣替えや不足品の連絡なども担当者が中心となって行なっている。入居者が自身の部屋として気兼ねなく過ごせるよう配慮し、臥床が多くなられた方には、特に声掛けや外気を取り入れ季節を感じてもらえる様努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来ること 解ることをしっかり職員が把握して見守ることを大事のしている。居室・浴室・トイレ等表示して解りやすく安全に利用出来る様努めて、自立した生活が送れるように工夫している。		